新港第１～第２突堤間における
水域活用のあり方について

令和４年３月

神戸市港湾局

目　　次

１．水域活用のあり方について

（１）水域活用計画策定の目的　……　１

（２）新港突堤西地区に関する既定計画　……　２

（３）新港突堤西地区の現状　……　３

（４）水域活用に関するサウンディング型市場調査　……　４

（５）水域活用計画策定に向けたポイント　……　５

２．水域活用計画　……　６

（1）水域活用計画策定の目的

神戸港は、1868年の開港以来、港町として人・もの・情報・文化が集まり、行き来する玄関口としての役割を果たし、わが国を代表する国際貿易港として発展を続け、港は市民の生活基盤、経済基盤として重要な役割を担ってきました。

高度経済成長期以降、港湾物流のコンテナ化の進展や船舶の大型化などに対応して物流活動の中心がポートアイランドや六甲アイランドなどの沖合へと展開する一方で、沿岸の古くからの港湾地区においては、施設の老朽化や活動の低下が目立つようになり、その在り方が問われるようになりました。都心・ウォーターフロントを如何に魅力・活力あるまちに再生できるかが重要な課題となっています。

神戸は、六甲の山々、港、数々の個性的なエリアなどさまざまな魅力があり、さらに、空港や新幹線など、広域交通インフラが整っており、大きな潜在力を持っています。この潜在力を最大限にいかし、神戸を持続的に発展させることを目的とし、神戸市では、都心・ウォーターフロントのめざすべき将来の姿を描いた“「港都 神戸」グランドデザイン”を2011年に策定しました。

新港突堤西地区は、明治時代から大正時代に埋め立てにより建設され、1965年頃まで“はしけ”輸送により神戸港の物流の主役を担っていましたが、グランドデザインにおいて、クルーズ船やフェリーのターミナル機能に加えて、商業・業務・文化などさまざまな産業を集積するエリアをめざす、という方針を定めました。

さらに、2017年に策定した神戸港将来構想では、上品で品格のあるラグジュアリーなまちの雰囲気を活かし「世界を魅了するみなとまち」となることを目標として掲げました。

これらの方針に基づき、新港突堤西地区では、フェリーターミナルやコンベンションホールを備えるホテルが整備され、現在は、住宅や業務施設を含む複合再開発が進んでいます。更には、1万人規模の大規模多目的アリーナ整備も計画されています。

このウォーターフロントが、賑わいと交流の拠点となるためには、これまでの再開発の状況を踏まえながら、都市に近接する貴重な新港第１・第２突堤間の水面についても魅力を最大限に活かした活用が求められており、このたび水域活用の方向性を示す「水域活用計画」を策定いたします。

（2）新港突堤西地区に関する既定計画

新港突堤西地区に関する既定計画は以下の通りです。再開発の方向性として、都心との近接性や眺望など優れたロケーションを活かしながら、市民や来訪者で賑わう魅力あるウォーターフロント空間を整備し、都心との相乗効果を発揮できるような交流拠点の創出を目指します。

既定計画における位置づけ	
「港都 神戸」 グランドデザイン ［2011 年 3 月］	○クルーズ船やフェリーのターミナル機能を拡充するとともに、商業・業務・観光機能に加えて居住機能を導入することで、活力・魅力を創出する新たな創造産業複合ゾーンの形成をめざす。 ○（新港第1・第2突堤）新港突堤西地区の中では最も眺望景観に優れており、誰もが神戸の港を満喫し、癒しを感じることのできるロケーション。水面の活用策として水上レストランやマリンスポーツの他、帆船等の係留など本来の突堤としての活用も行う。
神戸港将来構想 ［2017 年 7 月］	神戸港の目標を「港湾・産業」、「にぎわい・都市」に大別して設定 世界から人を惹きつける神戸ウォーターフロントの形成 ○日常的にぎわいと高質な空間、多彩な機能を有する空間へと転換し、賑わいと交流の拠点となることを目指す。 ○都市との近接性を活かし、高質な空間と様々な機能が融合した多彩な顔を有するウォーターフロントを創出。
2025 ビジョン ［2021 年 4 月］	○ウォーターフロントの魅力向上 新港突堤西地区では、第1突堤基部に引き続き、第2突堤など切れ目なくウォーターフロント再開発を推進するとともに、第1・2突堤間の水域活用を進める。
参 考 PORT2030 国土交通省港湾局 ［2018 年 7 月］	ブランド価値を生む空間形成 物流・産業機能の沖合展開に対応し、内港地区等を有効活用するため、多様化・高質化する都市開発と連携し、民間資金も活用した新たな手法による港湾の再開発を促進する。例えば民間資金を活用したマリーナ開発や長期の水域利用と一体となった臨海部空間の再開発など、陸域・水域の一体的な利用を促進する。

（3）新港突堤西地区の現状

【立地・アクセス】

各線・三宮より	約1km、	徒歩・約15～20分
ポートループ	20分間隔、	約10分
神戸空港より	ポートライナー利用、	約30分
新神戸駅より	市営地下鉄・ポートループ利用、	約30分

【周辺施設立地状況】

2014.9	神戸三宮フェリーターミナル　供用開始
2014.10	宮崎カーフェリー　就航
2015.12	こうべみなと温泉 蓮　開業
2017.7	神戸ポートオアシス　供用開始
2019.5	新港第1突堤基部複合再開発　事業着手
2021.1	Stage Fellisimo　開業
2021.4	GLION Awa-s Building（ジーライオンアワーズビル）　開業
2021.10	神戸ポートミュージアム　開業
2023	予定）ベイシティタワーズ神戸 西棟入居開始（東棟は2025予定）
2024	予定）大規模多目的アリーナ　開業

（4）水域活用に関するサウンディング型市場調査

１．調査目的

新港突堤西地区の中で最も眺望景観に優れたエリアとして、多くの人々でにぎわうウォーターフロントとなるよう、新港第１・２突堤間の水域活用を検討。

民間事業者との対話を通じて、水域利活用の可能性等を明らかにし、今後の事業実施に向けた条件整理等に活用するため調査を実施。

２．実施期間

令和2年2月12日（水）～19日（水）

３．調査結果

1．参加事業者	9グループ（マリーナ事業者、不動産事業者、建設関連事業者など）
2．突堤間の水域活動及び導入施設の提案	・マリーナ（スーパーヨット等の係留、ビジター向けサービスを含む）【複数意見】 ・水上レストラン【複数意見】 ・人工ビーチ・サーフィンプール ・大型船舶を利用した商業施設 ＜関連して必要な陸上施設＞ ・クラブハウス【複数意見】 ・レストラン、駐車場 ・ボードウオーク
3．事業手法・運営方法・スキームに関する提案	・陸域施設と連携した水域における事業化【複数意見】 大型艇のマリーナの場合、陸上施設への相乗効果が大きい ＜行政に求めるもの＞ ・防波堤の整備 ・周辺環境整備（遊歩道、広場など） ・新港突堤西地区とメリケンパークの回遊性強化 ・水上施設の架台の整備
4．その他の意見	・海外からスーパーヨット等で入国する訪日外国人のCIQ（入国審査）手続きの迅速化。【複数意見】 ・水上に仮設舞台を設置したイベント利用。 ・水上レジャー、アスレチック等で活用。

（5）水域活用計画策定に向けた課題とポイント

既定計画での位置づけや港湾行政全体の方向性、再開発の状況、民間事業者へのサウンディング結果をもとに、次のとおり課題や計画策定のポイントを整理しました。

水際を活かしたエリアの賑わい創出

【課題】

市民や来街者など、さまざまな人が集まり、にぎわうことによってまちの景観は生き生きとしたものとなり、更に良いものとなります。現在の水域や周囲のオープンスペースは、賑わいの場として十分活用されているとはいえず、計画されているアリーナなどと一体となった賑わいの空間づくりが求められています。

【計画策定のポイント】

水域周辺の施設（第１・第２突堤、基部）に連続性をもたせ、エリア一体で開放的な雰囲気を生み出す。水域を借景として、人々が足を運びたくなる、賑わい・憩い・くつろげる空間を創出

水面を活かしたエリアの魅力向上

【課題】

ウォーターフロントの魅力向上には、人々を誘引する集客施設の立地や、戦略的な観光施策の展開、街並み景観のデザインの向上などが求められます。新港西地区の水域背後には、集客力の高い施設が立地・計画されていますが、人々がエリアに滞在し、エリア内の施設に相乗効果を生むためには、上品で品格のあるエリアの雰囲気を高めることが求められています。

【計画策定のポイント】

都市に近接した貴重な水域を活用して、神戸の海の玄関口にふさわしい質の高い景観を創り出し、市民や観光客などを魅了する高質な空間を創出

民間活力を活用した利活用

【課題】

エリアを持続的に発展させるためには民間事業者等との連携が重要です。一昨年度実施したサウンディング型市場調査を基本とし、民間活力を活用した利活用、事業化に向け検討することが求められています。

【計画策定のポイント】

市場調査で民間事業者の意欲が高かった水上レストランやマリーナなど、賑わいやブランド価値の向上に資する活用を計画

新港第１～第２突堤間における水域活用計画

１．水域活用の基本的な考え方

『民間活力を活用し、ウォーターフロント・エリア全体の魅力と賑わいを持続的に向上させる水域活用を図り、賑わいと交流の拠点となることを目指す。』

（１）人々で賑わい、憩い、くつろげる空間を創り出す

○水域を囲むように、ホテル、フードホール、劇場型アクアリウムなど魅力的な施設が既に立地しており、2024年には1万人規模のアリーナも開業する予定である。
これら集客施設をプロムナードなどでつなぎ、開放的で気軽に回遊できる空間を生み出し、水域を借景として、市民や観光客など、誰もが気軽に立ち寄り、滞在し、そして再び訪れたくなるような空間を創り出す。

○新たに整備する波除堤は、ビューポイントの機能を持たせ、フォトジェニックな空間とすることを検討する。

○本計画地を活動区域とする都市再生推進法人・㈱神戸ウォーターフロント開発機構が中心となり、公共空間などを利活用することで、エリアの魅力・活力を高めるためのエリアマネジメントを推進し、全体として公共の利益の増進を図る。

（２）水域を活用し、高質なみなとの景観を創り出す

○都心に近接する貴重な立地を活かして、民間活力を活用しながら、訪れる人を魅了する高質な空間を創り出す。

○水域の活用は、民間ならではの発想・ノウハウ・民間資金を最大限活用することとし、サウンディング型市場調査をふまえ、具体的には水上レストランや、マリーナのほか、周辺施設等と連携したイベント利用が想定される。

・水上レストランなどの設置やイベント利用は、周辺に立地する施設と連携をとりつつ、ブランド価値向上につながるものとし、エリア全体の賑わいを創出する。

・マリーナは、国内外の動向や、近隣の利用状況等をふまえ、中型～大型クルーザーを中心とし、ブランド価値向上につながるものとする。スーパーヨットと呼ばれる、超大型クルーザーにも対応できるよう、ビジター機能も検討する。

○ブルーカーボンなどCO2の吸収源となる取組みや、賑わいと交流の拠点を生み出す多様な機能についても検討し、水域全体を最大限有効に活用する。

（３）安全に水域を利用する

○神戸港第１区水域は、中突堤地区の旅客船ターミナルや、新港突堤のフェリーターミナル、官公庁船溜まりが存在し、旅客船や遊覧船、業務船などが利用する水域である。
水域の活用にあたっては、関係者で連絡体制を構築するなどし、周辺水域利用者等と意見を交換しながら、安全な航行の確保に努める。

２．魅力と賑わい向上に向けた水域の活用

（１）親水空間の創出

・緑を配置したプロムナードやカフェスペースの設置などを通じて、水域と一体となる空間を創出し、市民や観光客が周辺のホテル・レストラン・アリーナなどを楽しみながら快適に回遊できる空間として活用

・昼間は水域や広がる海を借景として、夜間は周辺施設が創り出す夜景やポートタワー・海洋博物館のライトアップなどを借景として、人々が足を運びたくなる、そして賑わい・憩い・くつろげる空間として活用

（２）水面活用

＜賑わい創出＞

・環境に配慮し、環境学習の場を提供するとともに、各種イベントの開催を通じて海に親しみを感じてもらえる空間として活用

・水上レストランなど、都心に近接した水域を最大限に活かした施設が使用する空間として活用

＜船舶係留＞

・中型～大型のクルーザーを中心とした船舶係留や、ビジター桟橋など一時使用のために使用する空間として活用

・水上交通の利用や、貸切クルーズなど気軽に楽しめるレジャー等にも対応

水域活用のイメージ

※上記方向性をふまえ、民間活力を最大限活用した提案を求め、事業者を選定する。

水域活用の方向性　～水域活用のイメージ～

参考

親水エリア

賑わい創出エリア

船舶係留エリア

大規模多目的アリーナ